

令和4年度 活動紹介票

団体名	特定非営利活動法人劇団ゆう	代表者 職・氏名	理事長 菊田 第一
住所	岩手県滝沢市鶯飼細谷地146番地18	電話	019-658-8988

事業内容

助成区分		復興枠
事業名称		東日本大震災文化芸術復興事業「三陸沿岸キッズミュージカル交流事業“2023”」
主な活動地域		滝沢市・宮古市・山田町・大槌町・釜石市・住田町・大船渡市・陸前高田市
取組概要	目的	発災から10年間の文化芸術復興支援活動で培った「絆力」を活かし、今後の10年間は被災地域での新たな文化芸術活動グループの自立支援、及び活動を継続可能にする為の支援を自治体や地域住民、支援組織とより一層の「絆力」の構築を図りながら発展的に取り組む。
	内容	(1)絆力の構築と自立可能な発展的な活動を計画的に推進 発災直後から児童生徒参加型の活動を被災沿岸全市町村で実施し、本格的な文化芸術活動の推進と地域間交流の促進、また効率的な経費運用を図る為に沿岸中部エリア(山田町)、南部エリア(大船渡市)で、エリア間の出演者の相互交流を促進、更には内陸部(奥州市、滝沢市)との交流を通じて将来を見据えたネットワーク(絆力)の構築を計画的に実施した。 (2)住民参加型創作活動、及び自立型育成活動の着地点(出口)を明確にして活動を推進 ① 住民参加型創作活動は、地域や学齢を超えたミュージカル(文化芸術活動)との出会いと体験を通して、将来の進路の選択肢の一助となる12年目の活動、中部エリア(山田町)31名・南部エリア(大船渡市)37名の参加者と実施した。 ② 自立型育成活動は、将来自立、且つ継続出来る文化芸術活動の担い手を育成する部門として2年前に発足したが、児童・生徒の興味関心が高く、中部エリア・南部エリア40名は、1日で定員に達した。 (3)家族ボランティア、市民ボランティアが増加 練習会場への送迎や練習時のビデオ撮影、練習会場の受付や消毒、清掃等の支援や被災者への練習見学や成果公演への観劇を呼びかける等で家族ボランティア・市民ボランティア総数767名の協力を得る事が出来た。 (4)劇団ゆうは、行政との協働事業の計画的な推進と両エリアの出演者の指導にあたりと共に、成果公演のプロデュースを担当し出演者と共に被災者市民、中部エリア(山田町)成果公演観客数338名・南部エリア(大船渡市)成果公演観客数500名にフルスペックな観劇の機会を提供した。
	成果 (将来計画)	成果 1. 絆力の構築と発展的な活動が確実に推進 本事業の目的である「心の復興」と「絆力の構築」を目指して、将来の自立、且つ継続可能な文化芸術活動を地域で実現を図るために、かつてない程のコロナ感染症の拡大期にあってもほぼ募集定員の達成、高い練習出席率、家族や市民ボランティアの増加、両エリアや内陸部との相互出演交流等の成果を達成出来た。また、成果公演は、舞台構成、大道具、音響、照明等本格的な舞台演出を行い観客数は目標値の140%以上に達しこれらの成果は、本事業が計画的に推進出来ていることを実証している。 2. 毎年、事業内容に変化と進化をさせながら魅力ある事業を行っているが、今年度はプロのアクロバットパフォーマンスチームとのコラボが実現したことで、躍動感溢れる事業となり参加者・観客を含む関係者に新たな感動と体験を提供することが出来た。 将来計画 1. 継続可能な「世代を超えた住民参加型の市民ミュージカル」の自立活動を支援する。 本事業が、被災した沿岸地域の文化芸術の復興の先導的なモデルケースとなり、各地域に伝統文化、芸能、新たな文化芸術活動が自発的に芽吹き始めることが、被災者の「心の復興(ケア)」を促し、地域の「絆力」の軸と交流を通じて、沿岸南北200kmの「縦軸交流」と内陸との「横軸交流」のネットワーク構築の一助となる事を目指す。 2. 住民参加型創作活動、自立支援型育成活動の出口を見据えた活動を推進する。 3. 行政、地域コミュニティ、家族や市民ボランティアの絆力の構築を図る。 4. 補助金がなくなった場合の資金調達方法 (1)行政(地方自治体)の予算化を目指す。 (2)地元企業に協賛金を依頼する。 (3)応募出演者から参加費を徴収する。 (4)成果公演の有料化を図る。 (5)クラウドファンディング、文化振興基金、地域創造等の助成金への応募。 (6)劇団ゆうへの寄附金、賛助会費の拡充を図る。
事業費(千円)		4,604千円(うち補助金4,143千円)

山田町成果発表会



大船渡市成果発表

